

平成29年度学校関係者評価委員会 議事録

【日時】平成29年7月2日（日）15:30～16:20

【会場】こころ医療福祉専門学校 3階 会議室

【委員】出席：大木田治夫，志岐浩二，有村俊男，西原美由子（松尾峯子代理）
松本修，清川慎介，石原義大，諸岡辰巳，池上功，川崎和幸
沖永さとみ，下村雅樹

【事務局】出席：藤原善行，藤村幸一，田川祐治，野口大樹，坂口麻衣子，川口進一郎
久保義哲，古里尚也，松尾和香，大海譲史，高橋美如，松川征平

【委員】欠席：松尾峯子，中嶋孝行

（敬称略）

【総評】大きな問題なし。現状に満足することなく，さらなる改善に努める。

1 学校自己評価の説明（司会 副校長 藤村幸一）

学校自己評価報告書，学校自己評価結果に係る評価書の説明を行う。

2 平成28年度学校自己評価結果に係る委員の評価書

特に問題なし・・・○

附帯意見あり・・・△

	点検項目	学校関係者評価
1	学校の目標・計画	△
2	教育理念・目標	○
3	学校運営	○
4	教育活動	○
5	学修成果	○
6	学生支援	○
7	教育環境	○
8	学生の受入れ募集	○
9	財務	○
10	法令等の遵守	○
11	社会貢献	○
12	国際交流	△
13	学校評価の総合的結果	○

3 委員意見

- (1) 人材育成には、明確に目標を設定することが必要だと痛感した。
- (2) 国家試験難易度が上がることが予測されるため、卒業基準を少し厳しくしても良いのではないか。
- (3) 留学生や多様な学科など、少子化の時代に沿った学校運営であると感じた。介護施設の併設は、学生のためにもなり、利用者にも良い環境と思われる。
- (4) 新規でパソコンやIT部門の学科設置や調理（介護食・医療食）に関する学科を設置すれば、学生募集に繋がるのではないか。
- (5) 特に問題はない。長崎県で1番ではなく、日本で1番の学校を目指して、努力していただきたい。そのための協力は惜しまない。
- (6) 退学者に対する具体的な対策、留学生の就職先確保について詳しく聞きたい。
- (7) 学生の態度、考え方等から、学校の教育方針には問題ないと感じている。
- (8) 資格取得率は、学校のイメージに繋がるため、原因分析を行い、向上すべきだと思う。

4 その他意見交換

有村) 少子化の時代であり、学生募集は非常に大変だと思うが、施設の併設は、学生にも利用者にも良い効果があると思う。平成28年度のビジョンには熱い思いを感じる。学校は人材育成、介護福祉士会では、卒後の介護職員の育成を行っているため、今後も連携をお願いしたい。

志岐) 3年課程の場合は、何年間在学可能なのか。

古里) 最大6年間になる。

諸岡) はり師・きゅう師の国家試験合格率は、全国的に下がっているが、国家試験を受験させないことで合格率等を調整したりしているのか。

高橋) 卒業試験の合格者は国試を受験させているが、卒業試験が不合格で留年した者もいる。国家試験は、少しずつだが、年々難しくなっていると思う。

諸岡) 受験できなかったのは何名か。

高橋) 卒業試験は2度行うが、1回目で基準点に達しなかった者が1名、2回目で達しなかった者が2名だ。

大木田) 退学率が6.8%とのことだが、退学理由はどのようなものか。

藤村) 様々だが、主に成績不良、経済的理由などだ。以前は経済的理由が多かったが、現在は奨学金制度が充実しているため、それほどではない。成績があまり悪くなくても、進路変更してしまう学生が毎年何人かいる。

大木田) 職場でも、他施設ではなく別の職種に転職する者が数名いるので、似たような印象を受けた。

古里) 学校でも困っている部分だ。入学したものの、目指していたイメージと異なると相談に来る学生もいる。入学時点で職業適性を見極めをしなければならないかもしれない。入学後の心のケアとして、カウンセラーの配置、学生相談等を行っているが、学生が、進路変更を強く希望した場合には、他学科に転学する道がないか一緒に考えている。学生、学科、双方にとって良い結果となるようにしている。

藤原) 昨年度の退学者29名の内訳は、1年生が17名で50%以上を占めている。1年生の導入期の指導をどうするかが重要と考えている。就学者の社会人割合が増加しているため、目的意識は高い。専門学校は、「養成機関であり、教育機関ではない」という思いがあり、大学に近い関わりであるべきだと思っている。高校における生徒の多様化は、本校の1年生の状況よりもっと進んでいるため、教職員の意識改革は不可欠だ。入学後に想像と違ったというのでは手遅れになってしまう。退学者の全体の50%を超える1年生にどう対応するかが退学者減の要だと考えている。退学理由としては、進路変更12名、学力不足8名となっており、全体の60%を占めている。一人一人に、学生理解をベースにした関わりを、組織としてどう行っていくか検討する。

川崎) 学内での進路変更もいるものなのか。

藤村) 毎年、数名はいる。

松本) 整骨院を訪れた経験がないのに、柔道整復師になりたいという学生がいる。なるべく早めに柔道整復師の実情を知ってもらいたい。保護者や入学希望者にも、本人に合った進路を選択してもらいたいと思う。

大海) オープンキャンパス等で保護者と会う機会には、卒業後に柔道整復師として働くときの業界の話を、可能な限りするようにしている。

藤原) 本会で頂いた意見については、科内で検討し、具体化に繋げたい。

5 今後の取り組み(校長 藤原善行)

(1) 新学園ビジョンに基づく学園内の連携

新学園ビジョン「地域の医療福祉を包括的に支援できる組織になる」に基づき、地域包括ケア、4校の連携強化を図りながら、学園の教育成果を向上させる。

(2) 授業の充実と国家試験合格率向上

進学率を上げている高校の実績を参考にし、学生、学校の実態に応じて、国家試験対策に組織的・計画的・継続的に取り組み、国家試験対策を早期化する。学びの主役は学生であり、見通しを持たせながら指導していく。また、国家試験は人生を左右するものであり、国家試験に合格できなければ就職ができないという経験、重みを認識させる。

(3) 新PDCAシステムの構築

PDCAの在り方を、「組織目標を達成するために個人がどう取り組むか」という

方向に変更する。PDCAは、個人ではなく、組織の目標を達成するためのものであり、組織としてのPDCA実施を目指す。

6 まとめ（校長 藤原善行）

新カリキュラムは、単なる授業内容の変更ではない。社会の求めるありようが変わったということ認識し、ニーズに応える必要がある。各学科の専門力を含めた、人間としての総合力を高める。資格と技術が仕事をするのではなく、資格と技術を持った人間が仕事するという事実を再確認した。